

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：鹿児島大学教育学部附属中学校

活動名：
 生徒サポートで教師も救う
 ～不登校生と教師を支える体制づくり～

解決すべき課題：
 教師側 → 家庭訪問等を容易にできない。養護教諭任せになってしまう。登校後も、担任任せで、生徒の現状が把握できない。学習支援が十分にできない。一人で抱える責任感
 生徒側(保護者) → 学力への期待が大きい。中学校に行っても、居場所がなく、関わる教師が少ない。対人関係に悩みを抱えているが、授業(学習)に対する意欲は高い。

目標・方針：
 ① 担任・養護教諭だけではなく、チーム、組織として対応する。
 ② 教室でなければ、学習をすることができないという環境を改善する。 ③ 外部人材を活用する。
 → 学校/学級復帰・上級学校への進学を見据えて、不登校生徒を減少することができるのではないだろうか。

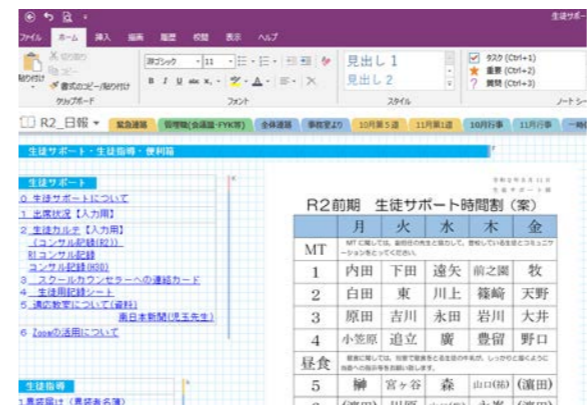
活動内容：
 I 環境を整備する。
 ・ グループウェア/メーリングソフトを用いて、生徒の様子や登校状況を一齐に把握する。
 ・ 全職員が 1 週間に 1 度は相談室で指導可能な対応時間割を作成する。
 ・ 遠隔会議システムの体制を整え、常に教室の「授業」や各種校内「行事」と「生徒(相談室)」をつなぐ。
 II 各種委員会での情報のシェア
 ・ 週に 2 回の職員朝会后/時間割に位置づけた「週に 1 回の学年部会」や「週に 1 回の企画委員会」
 → 生徒の様子を特別支援教育の視点等を参考に 1 週間毎に記録に残し、変容や対応を確認する。
 → 管理職を交えた企画委員会を設定し、生徒の情報共有と指導方針を確認する。
 III 学部リソースの活用
 ・ スクールカウンセラーと担任をつなぐコンサルテーションを確保する。(やりっぱなしをなしへ)
 ・ 臨床心理学研究科の実習生を積極的に受け入れて、生徒との多様な関わりを推進する。

活動の成果：
 ① 不登校生徒の減少 → 学校に全く来ない生徒は 0 名
 ② 学校に来て良かった感の向上 (学力保障とコミュニケーション)
 相談室にいながら、教室に入ることに伴う怖さの緩和と意欲の維持・向上
 学習に遅れがちな生徒が、「他学年の授業」を参観することで、復習ができる。
 ③ 不登校生対応へのクレームの減少 → 保護者から生徒対応に対する不満の減少

アピールポイント (アイデアや工夫)： 不登校生と教師を支える 4 つのシェアリング
 ① 空間(テレビ会議システムで教室をつなぐ) ② 経験(多様な関わりからの情報の共有する)
 ③ 責任感や負担のシェアリング(担任や養護教諭任せにしないチームとしての対応する)
 ④ ICT を使った情報(いつでも、誰でも、すぐ対応できるツールを確立する)

I 環境整備


グループウェアの活用



R2 前期 生徒サポート時間割 (案)

	月	火	水	木	金
MT					
1	内田	下田	遠矢	前之園	牧
2	白田	東	川上	篠崎	天野
3	原田	吉川	永田	岩川	大井
4	小笠原	迫立	廣	豊留	野口
昼食					
5	柳	宮ヶ谷	森	山口(副)	(副田)
6	(副田)	川原	山口(副)	末家	(副田)

不登校生に応じた学習環境



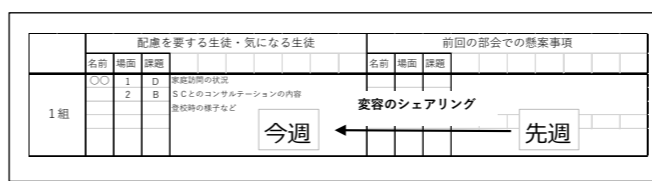
生徒サポート係

・ コーディネート
 ・ つなげる
 / 整える

II 各種委員会でのシェア

～学級→学年→全体へ～

個人の様子を記録に残しシェア



<カテゴリーで分類> 特別支援教育の視点から
 場面：生活面/学習面/対人面/家庭面
 課題：生活面なら健康管理上の課題など
 学習面なら意欲低下などで分類

III 外部リソースの活用

□ スクールカウンセラーとの連携

- 生徒のカウンセリング後の養護教諭または担任とのコンサルテーション
- 月に 1 度の連絡会
 大学職員、カウンセラー、養護教諭の連携

□ 臨床心理学研究科の実習生の活用

- 相談相手やストレスマネジメントの指

悩みを早期発見, 早期解決するために・・・

★ 予防的対応の ABC (あたりまえのことを ばかにしないで ちゃんとする)

- 実態把握：学校生活アンケート(県教育委員会)、学校楽しいーと(県総合教育センター)
- 教育課程に位置づけられた教育相談、アンケートの結果をふまえた教育相談
- ストレスマネジメント教育 → 道徳科との連携(授業前の呼吸法や漸進性筋弛緩法など)